

プロジェクト会議 議事録
「日進市わたしのまちのしあわせづくり委員会」
第1回 プロジェクト会議

日時:2014年5月8日(木曜日) 午前 9:30~11:30

場所:日進市役所本庁舎 4階第3会議室

きょうの目標:プロジェクト会議の初回です。谷口先生を招いて「ミニ勉強会」と、
この会議の進め方等についてのオリエンテーションから始めます。

参加者名:柏木・石川・加藤(誠)・河村・杉田・鬼頭・近野・石原・祖父江・櫻井・大橋・小柳・近藤・長谷川・須崎
欠席者:1名

事務局:<市>加藤(利)・水野・川本・小出・嶋崎・久野
<社協>田中・青山・天野・福田
<都市造形研究所>細井・赤津

おもな内容:

○開会のあいさつ(市 嶋崎)

○市福祉部長あいさつ

○社会福祉協会事務局長あいさつ

○会議の趣旨説明。(市 久野)

- ・地域福祉計画の策定スケジュール、組織体制、各委員会・会議の役割、プロジェクト会議の進め方などについて説明。
- ・本日のおしながきを紹介(都市造形研究所 細井)

○ミニ勉強会 谷口 功先生(椋山女学園大学人間関係学部准教授)

- ・地域福祉は「協働行政」といえます。行政とどう協力していくのかを法的な発想ではなく、前提をとりなおす形である。
- ・「みんな」が普通に暮せるまちとは何であろうか、「みんな」とは誰を含むのか、どこで線引きをするのかが私達市民、行政にも問われるところであり、考えたいところである。
- ・作っただけで終わってしまう計画がこれまでもあったが、出来た計画を市民も行政も手にとり、自分たちもやってみよう!と両方が思える計画にしたい。
- ・「福祉」という言葉を行政がどう受け止めるのか。この10年、全国の自治体でも福祉に対する行政の対応では二極化している。
- ・「福祉」を狭義にとらえると社協も行政も一事業で終わってしまう。対して、広義にとらえると、行政のそれぞれの部署で、何ができるのか。市民は税金を払うというプロセスの中でサービスの提供をうけることができるということから、広く一体で考えるしくみが必要になる。日進市自体も、その様にかじを切っていく、オール日進という形で福祉に取り組んでいく覚悟を持って計画作りを行うのではないか。
- ・今回二つの計画作りだが、主語が行政になる地域福祉計画がある。一方社協が、市民が、私たち自身がどういった活動をするのか、活動計画との両軸を作りながら、担当部署だけでは難しいので、お互いもれの無いよう整理しながら、行政、社協の判断の中で作っていくものだと思う。
- ・座談会では各小学校区単位で行ったが、「地域」に対する考え方を、どの範囲を区域とするのか、福祉課だけの問題ではなく各部署と共有し、答えを見つけだすことがいいと考える。日進においては、小学校区は、私達の実際の生活圏を考える上で納得できる範囲ではないかと思う。
- ・「しあわせづくり委員会」では、市民から外部に委託するのは残念だ、行政に力はないのかという厳しい声が上がった。この意見に対し否定するつもりはないが、委託というシステムも必要なものではないかと思う。ただし、計画作りに携わる市民は、その様に行政の本気度を試していると言える。

- ・行政は担い手として、市民に本気でゆだねる気があるのか、市民を信頼しているのかという意見があり、とても厳しいが、真摯に受け止める必要がある。
- ・国も同様に「地域」という言葉を使えば何でも解決できるという感覚になっている。地域福祉の具体的な担い手は誰か。受け皿の問題がある。みなさんの部署でも問われることであり、どのように担い手との信頼関係を築くのか、自分達の役割を考えて頂きたい。
- ・(別紙「共働のまちづくり」図について)行政の行う分野、市民、企業、自治会等の行う分野など、各部署の業務がどの分野に当てはまるのか、整理して理解することにより繋がっていく計画になると思う。行政内で、各部署が向き合い、整理し、市民を育てていく、また、考えるための土壌作りも行政の役目と言える。
- ・市民の意識と税金について、例えば、障害者施設を新設しようと計画しても、一方で迷惑と訴える人がいるように、福祉と税は密接に関わりあっている。住みよいまちと言われる日進市で福祉問題を可視かするにはどうすべきか悩むところである。
- ・生活困窮者に対する対応も、国は撤退し、自治体、地域にまかせる流れは止めようがないと考える。日進市の「住みやすさ」の根拠が、社会が貧困問題に関わって包摂する社会なのか、便利で無関心でもいい社会だからなのか。
- ・地域福祉について考えると、干渉する社会が大きく力を持つと言える。この両方の感覚のねじれと、今後どう折り合いをつけていくのか、市民の皆さん、行政の皆さんにも考えて頂きたいと思っている。

○質疑

- ・「協働」と「共働」の違いについて
 - 「協働」は行政と市民と関わりあって行う分野の単位、「共働」は行政・市民が専属的に行う分野と「協働」を含めた全体の分野を表す単位。市民と行政と一緒に活動するもの分野だけではなく、市民や行政が単独で行う分野も含めて「共働」という言葉で表されるようになった。
- ・環境計画では小学校区単位を圏域とした計画では難しいという判断をしている。地縁型コミュニティとテーマ型との連携を深めていくことが大事だと考える。
 - 環境計画のように地域ではなく、テーマでわける考え方も大切である。福祉計画では、2つの計画を作る上で、市民の生活基盤の帰属を新たに作る意思表示と考えている。意識や高齢化率などが異なる地域、区や自治会で、それぞれの生活課題に対応することには限界があるが、全市的でも広すぎる。自治会ベースなど狭い範囲で考えることは、包摂的である一方で排除する組織となりやすい。もう少し広い範囲でケアしていく必要がある。全ての計画に当てはまるわけではないが、福祉について学区で考えることは適しているのではないか。

○上位計画/関連計画/国・県・類似事例の動向/これまでの計画の達成度と課題について(市 久野/社協 天野)

- ・資料説明

○名札づくり(都市造形研究所 細井)

- ・各自ニックネーム記入。
- ・ニックネーム及び自己紹介

○次回予定(都市造形研究所 細井)

- ・本日のひとことアンケート記入。
- ・次回宿題配布(最低三人にヒアリングしてもらう)。

○閉会の言葉(市 嶋崎)

- ・次回のタイトル「風呂敷を広げて考えてみよう！～意見の発散をおそれずに」。開催日は 6 月 16 日(月)14:00~16:00 です。
- ・ひとことアンケート及び名札回収。

以上